

事務事業評価シート

評価年度	23年度
------	------

事業名 CD	0102010603	男女共同参画社会づくり事業
細分化した事業名		
事業担当課室 CD	100300	企画財政課
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	人が集う交流のあるまちづくり	
	中項目	市民と行政の協働によるまちづくり	
	小項目	男女共同参画の推進	
関連する個別計画等	輝いてきらめいて蕨崎プラン	根拠条例等	蕨崎市男女共同参画推進条例
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	<p>男女が互いに人権を尊重しつつ喜びも責任も分かちあいながら、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会実現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○男女が家庭生活と仕事を両立できる環境づくり ○雇用の場における共同参画の推進 ○地域社会における男女共同参画の推進 ○家庭における男女共同参画の推進 ○学校における男女共同参画の推進
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	市民全般
これまでの改善経過	<p>○平成15年3月「輝いてひらめいて蕨崎プラン」作成</p> <p>○平成18年3月「男女共同参画推進条例」を制定</p> <p>○平成18年3月蕨崎市男女共同参画推進委員会を設置</p> <p>推進委員会を毎月開催し、家庭・地域の2つの課題別部会ごとに啓発活動を行っている。また、平成20年度より地区の公民館活動と連携を図り、各地区において男性の料理教室や、男女共同参画模擬寄席等を開催している。また、年に1回男女共同参画フォーラムを実施している。</p>
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■市 □委託 □補助金 □その他()</p> <p>男女共同参画推進委員会が中心となり、蕨崎市における男女共同参画社会の実現や人権確立に向けた取り組みを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○男女共同参画推進委員会を開催(毎月) ○県主催男女共同参画各種イベントへの参加 ○蕨崎ヒューマンフォーラムの開催(年1回)
事業の成果 (どのような状態にしたのか、どのような効果を得るのか)	<p>男性の育児参加や女性の社会参加を促進することで、男女が共に良きパートナーとしてあらゆる分野に対等に参画し、個性や能力を発揮し、かつ責任を分かち合う社会(男女共同参画社会)実現に向けた推進を図る。</p>

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	1,099	1,224	1,143
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	市債			
	その他			
	一般財源	1,099	1,224	1,143
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.25	0.25	0.27
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	1,727	1,706	1,815
D	総事業費(A+C) (千円)	2,826	2,930	2,958
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	113 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分かりやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	推進委員会開催回数	(回)	11	13	11
	延推進委員出席者数	(人)	207	247	221
成果指標	推進委員会開催回数	実施回数 11 回/予定数 12 回 (%)	92	100	92
	推進委員出席率	延会議出席者 221 / (開催数 11 回×委員数 25 人) (%)	75	76	80
効率指標	年間報酬合計	○推進委員会 年間延出席回数 221 回×1 回当たりの委員報酬 3,000 円単位 (円) ○カカシ作成、ヒューマンフォーラム 年間延出席回数 62 回×1 回当たりの委員報酬 3,000 円単位 (円) ○講師・アドバイザー謝礼 100,000 円単位 (円)	955,000	1,056,000	949,000

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 男女が性別を理由に差別されることなく共同した生活を送る上で、家庭・地域・職場における男女の意識改革は不可欠である。市民参加型の啓発事業により参加者の理解が得られ、男女共同参画社会実現にもつながることから、妥当な事業である。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 男女共同参画推進アドバイザーを採用し、委員の男女共同参画への理解を深めている。また、啓発活動としては公民館活動と協働していることから、住民参加が得られやすく、啓発の効果が上がっている。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 委員報酬 1 回 (1 時間半) につき 3,000 円 委員人数 25 名 (11 地区 男女各 1 名ずつ+市の推薦 3 名) H22 現在 (男性 13 名・女性 12 名) 委員会実施回数 11 回 年間報酬 H22 年度合計 949,000 円 (内委員報酬 849,000 円) 経費の大部分は委員報酬である。 フォーラム開催等、協議に時間を要するイベントもあり委員を削減することで負担増につながる恐れがある。 また、負担増になると委員会への参加も期待できなため、地域における男女共同参画推進は図れない。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 ・家庭内から暴力をなくす。 ・社会教育の場で男女共同参画に関する学習の機会を増やす。 ・育児環境の整備を進める。	(2) 24 年度 ・推進委員会の協議の中で、活動の方向性を検討する。	(3) 23 年度 ・推進委員会の協議の中で、活動の方向性を検討する。
	22 年度の改善計画 ・男性の家事・自立を促す料理教室の開催。 ・男女共同参画についてのチラシを作成し、企業や労組に送付し活用してもらう。		
22 年度の改善結果 ・各地区において食生活改善推進委員と連携を図り、男性料理教室を開催。 ・男女共同参画啓発のチラシを作成し、各地区に配布した。			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 男女共同参画推進の主体は推進委員。 行政は後方支援。			
課長所見	男女の固定的役割分担意識の解消を図り、男女共同参画社会の実現に向けての活動は、家庭・職場・地域など様々な分野での啓発が必要である。本事業は、各地区推進委員が推進委員会での活動経験などを地域に還元するとともに、市全体イベントによる啓発が中心であるが、今後他の方策の検討も必要である。		